

研究

佐伯市戦後五十史(三〇)

—大鶴市政の歩み—

矢野 彌生

(会員 佐伯市中山区)

〈前号〉

二九 昭和五十年代の文化・スポーツ

(一) 佐伯の文化

(二) 佐伯のスポーツ

三〇 大鶴市政の歩み

(一) 大鶴市政の発足と経過

第一期目〈市民と密着した市政を重視〉

昭和五十四年(一九七九)四月、佐伯市長選に立候補し
対立候補の浜崎義雄を破って、念願の初当選を果たした。

大鶴文雄は五月二日、三期十二年続いた池田市政のあと
を受けて、第七代市長に就任した。

大鶴市長は、市民と密着した市政を重視、就任早々の五
十四年五月十八日、市長との対話集会を開始した。

以後、市政モニターの発足(五十五年四月)、市長対話の
日の設定(同年十一月)など、市民の声を取り入れた市政
の執行に取り組んでいる。

また、福祉問題にも力を入れ、高齢者職業相談所の開設、
佐伯市の老人福祉センターなどの諸事業を遂行、一方で小
中学校・幼稚園の建設、落成など多くの治績をあげてい
る。¹⁾

また、昭和五十六年には、県下十一市に先駆けて「父子
手当制度」をスタートさせている。

第二期目 〈飛躍の二期目〉

昭和五十八年(一九八三)四月二十四日、佐伯市長選挙
が実施され、数々の公約を掲げて、二万票という市民の信
任を得て二期目の大鶴市政がスタートした。

一期目で着手した事業を大切に、新しい事業を大胆に、
まちづくりの動きが始められた。

人間尊重の精神をもとに「清潔」「公正」「活力ある市政」
という民主的な行政運営を進めている。

先ず第一に不況脱出への取り組みを重視し、倒産企業の再建に最大限の協力をしていくこと。

また、交通体系の整備では、フェリー基地の建設、港湾の整備、陸路では県道佐伯―津久見線の整備を促進し、県都大分との距離を短縮をはかる。

更に、福祉の面でも精神薄弱者(知的障害者)通所授産施設や「さつき園」開所など、教育・文化では幼稚園・小中学校の諸施設、市民体育館の建設など、積極的に取り組んでいる最中、昭和六十一年七月十四日、心筋梗塞の為、急逝した。享年六十五歳。

大鶴市政七年の歩み

昭和五十四年度(一九七九)

- ・五月二日 大鶴市政スタート。さつそく市長対話集会を始める。
- ・福祉事務所内に高齢者職業相談所を開設。
- ・前年六月に倒産した臼杵鉄工佐伯造船所などの離職者のために、市役所内に職業相談センターを設置。
- ・下水道幹線管渠工事に着手。

〈主な事業〉

佐伯小学校校舎改築、下堅田小学校体育館改築、八幡幼稚園園舎改築、上堅田公民館新築、老人福祉センター新築、佐伯駅観光マンガ除幕。

昭和五十五年度(一九八〇)

- ・市政モニター制度発足。
- ・十一月からは「市長対話の日」を設定。
- ・可燃ごみの週二回収集地区を拡大。

〈主な事業〉

鶴谷中学校校舎完成、下堅田幼稚園園舎改築、佐伯東小学校体育館改築、鶴岡小学校プール建設、佐伯小学校給食調理室改築、久部保育園園舎落成、藤望団地造成。

昭和五十六年度(一九八一)

- ・町並み保全の為、「歴史的環境保存条例」を制定し、無秩序な開発に歯止めをかける。
- ・県下十一市に先駆けて父子手当制度を発足させる。
- ・ゼロ歳児保育がスタート。

〈主な事業〉

市立図書館落成、木立公民館落成、城南中学校校舎増築、

大入島小学校体育館新築、佐伯東幼稚園園舎改築、下堅田小学校プール建設、女島橋・お塔橋竣工。

昭和五十七年度（一九八二）

- ・レイキ工業を木立永野に誘致することに成功。
- ・市役所で昼休み窓口業務が開始される。
- ・京都大学の西川教授に調査委託していた「歴史文化環境整備計画のための調査報告」発表される。この報告書が、後の「歴史と文学の道」構想の礎となる。

〈主な事業〉

市民体育館落成、西上浦地区公民館落成、佐伯東小学校給食調理室完成、佐伯城南中学校校舎改築、鶴岡幼稚園園舎改築、大入島小学校プール新築、灘小学校体育館新設、彦陽中学校ナイター設備完成、大手前市営駐車場オープン

昭和五十八年度（一九八三）

- ・終末処理場の建設に着手。
- ・通学区の設定・変更に関する事柄を調査・審議する「佐伯市立学校通学区審議会」を設置した。

〈主な事業〉

佐伯小学校校舎改築、渡町台小学校校舎・給食調理室増築、城南中学校校舎改築、鶴岡小学校ナイター設備設置、木立小学校給食調理室改築、中江・上久部団地造成。

昭和五十九年度（一九八四）

- ・大和冷機工業の誘致。歴史的環境保存地区内の電柱を撤去し、土塀復元に補助を行う。
- ・山際線「歴史と文学の道」に着手し、まちの顔・個性づくりに取り組む。

〈主な事業〉

精神薄弱者のための通所授産施設「さつき園」を社会福祉法人にするための補助を決定。
・反対の多かった鶴望区画整理事業を、この年白紙撤回した。
鶴岡小学校・青山小学校ナイター設備完成。堅田学校給食センター完成。灘小学校校舎改築。上堅田小学校体育館改築。佐伯小学校プール改築。中江団地造成。水道事業第六期工事完成。

昭和六十年(一九八五)

- ・ 昭和六十二年の開校を目指して南部中の用地を確保、土地造成に取り組む。
- ・ 地域経済高揚の為、雇用開発促進の醸成に努める。
- ・ 民間団体とも協力しあつて馬場の松を復活し、市職員
の自主研究グループを発足させる。

〈主な事業〉

上堅田幼稚園園舎改築。通所授産施設「さつき園」開所、
檜野橋新設着工、中江団地造成、南浜テニスコート新設、
都市計画街路大手前佐伯港線着手。

昭和六十一年(一九八六)

- ・ 南部中学校の建設が始まる。
- ・ 「花と緑のまちづくり」、ユニークな細長い公園「野
岡緑道公園」、「中山墓地公園」、「歴史と文学の道」の
整備など、特色のあるまちづくりに取り組む。
- ・ 新佐伯大橋の公共事業方式で早期完成を図る。
- ・ 海崎バイパスは今年度着工の見込み。
- ・ 二平合板工場の跡地に、フェリー埠頭の建設が進め
られている。

新しい都市魅力の創出が見え始めた。大鶴市長の死は、
まさにその矢先だった。

大鶴文雄の略歴



大 鶴 文 雄

大鶴文雄は、市民サイドに立つ政治を行った優れた政治家で、第七代佐伯市長として多くの実績を残した。

大鶴文雄は、大正十年(一九二二)四月二十六日に、南部郡八幡村に生まれた。昭和十六年(一九四二)三月大分県立白杵商業学校を卒業している。

文雄の長男、直己は「父の想い出」の手記の中で、「父にとつて白杵という土地は、自分の生まれ育った佐伯と同じくらい愛すべきところだった。父は、白杵商業に入学したものの、途中で長期の病気休学をせざるを得なかった。結

局、七年間を費やして、やっと卒業するのであるが、父にとつて、最も多感な時代を学び過ぎた白杵は、生涯忘れることのできない思い出の土地となった。」と述べている。

大鶴文雄は白杵商業学校を卒業後、昭和十七年（一九四二）に日本セメント株式会社佐伯工場に入社、昭和四十九年（一九七四）までの三十二年間、同工場に勤務した。

また、昭和二十四年（一九四九）二月から八月までと、同三十三年（一九五八）八月から三十六年までの二度、日本セメント労働組合佐伯支部長を務め、労働運動に精力的に取り組んだ。

長男、直己は手記の中で昭和三十年代の大鶴文雄の印象を、次のように記している。

「父の昭和三十年代は、労働運動に没頭した時代だった。父は、月に最低一回は上京することを余儀なくされるほどの多忙な日々を送っていた。父が出張中の我が家は、実に平和でのんびりしていた。夫婦喧嘩もないし、客が訪れて来ることもなかった。僕たちは、のびのびと振る舞う事が出来た。子どもたちに勉強せよとか、口うるさいことは、まったく言ったこともない父であったが、それでも、父は僕たちにとつては、常にうつつとうしい存在だった。

一ヶ月くらいずつと東京に行つていけば良いのに。僕はたびたび思った。

父には、どこか無言の圧力みたいなものを感じていた。あの圧力は何だったのだろうか。と僕は考えてみた。そして、自分が息子を持った今、あの時の『圧力』がなんとなくなつてくるような気がした。それは、無意識の『期待感』という『圧力』だったのかも知れない。」

この後、大鶴は大分県労働金庫理事、佐伯労信販理事を経て、昭和三十四年（一九五九）五月、佐伯市議会議員に当選。四期十六年市議を務め、四十六年五月から四十九年九月まで市議会議長の職にあった。

アララギ派の歌人

大鶴文雄と短歌の付き合いは長い。

昭和十八年（一九四三）から、日記代わりに短歌を続け、おりアララギ派の歌人であった。

金盡きなば

飯米を売れと

さりげなく

妻に 謂い置きて

病院へ發つ



(昭和二十九年一月「アララギ」)

五萬五千圓の

期末手当を

得たる今

餓首されし

君等を

語る者なし



(昭和三十年十月「アララギ」)

た。
短歌の他に囲碁も趣味としており、二段の腕前であつ

(注)

(1) 『日本歴代市長』第三卷(昭和六十年)

(2) 『市報さいき』(昭和六十一年八月号より)

(参考文献)

・矢野彌生『大鶴文雄人物伝』

〔市報さいき〕平成十三年九月一日号)

・『大分県歴史人物伝』

(大分合同新聞社 平成八年)

・大鶴文雄・大鶴直己著

『土』のふる里にわれは降り立つ』

(昭和六十三年)

・『市報さいき』(昭和五十八年六月一日号)